

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901431		
法人名	有限会社ボブラ		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホームあじさい		
所在地	〒070-0874 北海道旭川市春光4条9丁目6番12号		
自己評価作成日	平成29年11月1日	評価結果市町村受理日	平成29年12月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_2_kani=true&JigvosyoCd=0172901431-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあじさいでは、地域の皆様に信頼される施設を目指しております。職員と利用者様が共に時間を過ごし利用者様の想いを傾聴し穏やかに生活を送り健康状態を維持できるように支援しております。利用者様とご家族様との信頼関係を大切にし細やかな気配りに対応ができる施設を目指しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成29年12月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旭川市郊外の閑静な住宅地に、2003年に開設した2階建て2ユニットの事業所である。庭には『グループホームあじさい』の名前の通り、様々な種類の紫陽花が咲き利用者の眼を楽しませてくれる。他に、菜園・藤棚・ぶどうの木等があり、四季の移り変わりを身近に楽しむことができる住環境にある。前庭には椅子やテーブルを置き、暖かい日のお茶会・昼食・外気浴に利用している。事業所内は、職員や利用者の動線を考慮して造られており、廊下は車イスが交差ができる広さがある。脱衣室の洗面台は身体状況に合わせて昇降式を採用しており、浴室はヒートショックに配慮して床暖房になっている。運営推進会議は、近隣住民や行政職員が参加し、2か月に一度定期的に開催され、ケアの充実と事業所の運営に役立てており、感染症や食中毒についての勉強会もしている。また家族会を年2回開催し多数の家族が交流している。長年勤務している職員が多く良好な人間関係と、利用者・家族とは馴染みの関係ができており、家族の信頼も厚い。質の高いケアの実践と共に、利用者が持っている力を発揮しながら、安全で豊かな暮らしを楽しめるように支援している温かい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	創設時よりの理念を玄関に提示し職員も読んでいる。毎日の業務時には理念である利用者さんの人格の尊重を心がけている	事業所の理念・基本方針・介護の誓いを掲示し、理念と基本方針は、パンフレットに記載している。ケア心得11ヶ条は、申し送り時に唱和し、全職員で共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内のお祭りや敬老会のお知らせが施設利用者様にも届き、利用者様は身体状況から参加は困難であるが、代表で職員が町内の行事に参加している。	事業所の行事であるあじさい祭りやクリスマス会には地域住民が参加している。看護学校の学生が、実習で事業所を訪れ利用者と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者とご近所の方との交流を通し独居の高齢者の生活課題や支援体制についてお話する機会がある		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議開催のときには参加ご家族様もお話を伺ったり利用者様の最近のご様子などを報告しサービスの向上に生かしている	運営推進会議には、家族代表・障害者相談支援センター職員・行政職員・町内会役員等が出席し、事業所の状況や職員研修計画等が話し合わせ、事業所の運営に効果を上げている。議事録は整備し、利用者家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは都度連絡を取り合い報告、連絡行い 運営推進会議の際には出席いただいている	ケアサービスの疑問や質問等は随時相談し、日常的に連絡を取り共にサービスの質の向上に取り組んでいる。市介護給付係職員は運営推進会議にも出席し、意見交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を都度もうけ 身体拘束は生命の危険がある場合にのみ「一時性」「非代替性」「切迫性」の原則を理解してケアを行っている。	指定基準を具体的に確認して、基本的なケアの実践に活かすよう職員相互の共有を図り、利用者の安心と安全の遵守に努めている。玄関は夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の尊厳が守られるよう虐待についても事業所内勉強会を行ない外部研修などにも参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会に参加したり、毎朝の申し送り時に管理者からお話を伺うなどしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者より十分に説明がなされ改定の際にも都度文書などで改定部分の説明を通知し職員からも説明がなされている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からの要望には随時受け付けケアや毎日の生活の中に反映させている	来訪時の会話の中から、希望や要望をくみ取り、家族の思いを運営に反映するようにしている。年2回開催する家族会には、多数の参加があり家族間の交流の場となっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りや、月一度のミーティングの際に各職員の意見や提案を聞いて毎日のケアや業務に反映させている。他毎日の業務の際にも管理者に伝える事ができている	全職員参加の事業所会議が定期的に行われており、職員の意見や提案を聞く機会がある。さらに良いケアサービスを提供するために、職員間の打ち合わせは毎日行なっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の勤務時間、休憩時間、勤務状況、業務内容を都度把握しスタッフの健康状況にも配慮し努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内勉強会を月に一度行っているほか、グループホーム協会や医療機関、包括の研修などに参加することを啓発し参加することができる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者間との交流を大切にし各ネットワークを通じた勉強会などにも参加し現場に情報を通しサービスの向上に取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時、面談時にはご本人様が日常生活において困っていることや不安なこと、生活上の要望などを聞いている。ご本人様の生活歴や生活環境を伺い施設での生活に反映できるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、面談時にはご家族様が困っていることや不安なこと、生活上の要望などを聞いている。ご本人様の生活歴や生活環境、ご家族様の想いを聞き施設での生活に反映できるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様の現状、介護サービスが必要となった経緯を聞きご本人様の状況に応じたケアを行なえるよう対応し、他に必要なサービスがあればその機関とも連携するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に洗濯物たたみなどのお手伝いを行い、職員とご本人様とコミュニケーションを図っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との交流を継続できるようケアプランに取り入れ病院受診時など施設職員とご家族が同行している。また利用者様の様子についても職員からご家族様にお話している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や親戚との交流を継続できるよう面会などプランに取り入れている。長年通院していた病院で主治医の診察が継続できるよう支援している。	これまでの人間関係や、馴染みの場所との関係が継続できる様に支援しており、以前住んでいた近所の人が訪ねて来たり、家族と一緒に墓参りに行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各個人の性格を配慮し、食事時やレクリエーション時に利用者様同士交流できるよう職員が介入しながら毎日の生活の中で取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も病院入院中の方へのお見舞いやご家族様への相談支援などに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員はご本人様の訴えを傾聴し必要に応じ対一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。訴え時にはご本人様の言葉に表現しきれない想いを理解し共感的態度で接するよう努めている。	利用者の担当職員が中心となり、一人ひとりの思いや意向を把握し家族からも情報を得て、心身の状態に配慮しながら希望に添えるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際にはこれまでの介護サービス利用の経過や生活歴、既往歴、家族構成、生活習慣を可能な限り情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活で各個人のバイタルの変調や睡眠リズムや排便リズム、その人個人ができる事、できない事を把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で情報共有がなされ実際行なって良かったケアなどをケアプランに反映している。	会議やモニタリングで意見交換し、定期的な見直しは3ヶ月に1度、変化が生じた場合は随時見直しを図り、利用者の状態に即したケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子の中で ご本人様に変化があった事や、本人が話した言葉などをケース記録に記載しケアの実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の心身状況にあわせてケア内容を職員は工夫して取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の病院が連携医であり体調異変時には受診し健康状態を維持している。職員と散歩の際には町内の花壇を見るなど支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の病院が連携医であり、週一回健康チェックを受けている。また本人、家族の希望による他科病院受診も支援している。	事業所の協力病院に定期的に通院し、健康管理を行なっている。利用者が希望するかかりつけ医への通院支援も行ない、一人ひとりが適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週医療連携時の健康チェックの際には職員と看護師とで個々利用者さんの様子について確認している。また体調異変時にはかかりつけ医や連携医に連絡を取り指示を仰ぎ対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設での普段の様子などを病院に情報を提供し早期に退院できるように入院中のご利用者様の病状を病院関係者に確認している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設でできる事とできない事をご家族に充分説明し重度化した場合には今後の生活のあり方について病院関係者、職員、ご家族、ご本人と情報交換しご家族が熟慮して安心できる方針で支援していくように取り組んでいる。	看取りや、重度化した場合の具体的対応に係る指針は文書化している。ターミナルケアに対する同意書を作成し、利用者や家族が不安感を持たないようにチームとして支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡先を各職員がわかるようにしてある。また応急手当の訓練も行なっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・災害時のマニュアルが作成され昼夜想定し自衛消防訓練が行なわれている。また災害・火災時のマニュアルが作成されている。	年2回消防署の協力のもと、利用者や近隣住民と共に避難訓練を行っている。缶詰や飲料水等の食料品の備蓄をしている。	災害の少ない地域ではあるが、いつ起こるか分からない自然災害に対応できるように、地震のシミュレーション訓練の実施を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人様の気分を損ねないような声掛けやご本人様との関係を築けるような言葉掛けを心がけて行なっている。	入浴やトイレ介助の際など、利用者を傷つけないように日頃から個人を尊重した言葉かけに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活場面でご本人様にどうしたいのか確認するようにしてご本人様の意思による活動を支援できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆっくりしたい人、早くお部屋に戻りたい人、寝ていたい人、ホールでお喋りしたい人 それぞれの利用者さんのペースで過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	色付き眼鏡をかける習慣や髪の毛を結う習慣や、好みの衣類、時計などの装飾品をつける習慣を尊重し支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が食事の席と一緒に座りメニューをお伝えしお話しなどコミュニケーションを交しながら楽しく食事ができるように毎日の業務に携わっている	利用者の、希望・嚥下・咀嚼を重視した食事を提供している。変化をつけ、時には弁当箱で提供し、クリスマス会はバイキング料理を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食摂量、水分量を把握しご本人様の嗜好によるヤクルトや乳製品など飲用し毎日の水分が摂取出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 口腔ケアを行い個々人の能力に応じた介助を行ない、口腔ケアの際には職員により口腔内の状態を観察している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日のご本人様の訴えや行動状況から排泄表から排泄パターンを読み取りその人の能力に応じたトイレ介助を行なっている。	本人の身体的状況や心理的な負担も検討しながらトイレ誘導の方針を職員が話し合い、支援している。自尊心に配慮した声かけとさりげない誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通を把握し内服薬を主治医と相談している。嗜好や体調によりヤクルトや乳製品を購入し飲用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は月・木と決まってはいるものの、ご本人様のタイミングや体調を考慮し入浴をしている。	本人の希望する時間に入浴できるよう支援している。浴室は、温度差に配慮して床暖房を採用し、1階浴室には、安全で快適な全身シャワー浴を設置している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個人の慣れ親しんだ寝具や希望に応じて冬季は湯たんぽを使用している。また日中は ご本人様の意思により午睡したり居室で休まっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人のケース記録に薬情書、現病歴、既往歴が明記され職員全員が読んでいる。また日々の業務の中で体調異常など職員間で情報が共有されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各個人の嗜好にて家族より差し入れやヤクルトなど購入している。レクリエーション活動でも本人の意欲を引き出し職員と一緒に楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族協力のもとで各利用者様の親族間の行事にも参加され、お天気の良い日は職員と町内を散歩したりしている。	散歩・ドライブ・食事・おやつ等、個々の希望に合わせて戸外に出られるよう支援している。ホーム前庭には、テーブルと椅子が配置されており気軽に戸外で談笑することもできる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様自身では金銭管理は困難であるがお金の心配をされた際には お金の心配の無い事を職員よりお伝えし、日常生活の中で購入希望があった場合には購入を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様宛ての郵便物を取り次ぎなど支援している。電話は使い方がわからず利用者様自身で使用する事は無いが、ご家族様の来訪予定などご本人様にお伝えし直接面会時にお話できるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室や共有スペースの照度、温度などはその都度調整し、共有スペースには季節のお花や塗り絵を採り入れている。	廊下は広く、車イスが2台すれ違える広さがある。居間の窓からは庭のあじさいや四季折々の花が眺められる。共用スペースには、利用者手づくりの貼り絵やぬり絵など季節感溢れる作品や行事写真が飾られている。脱衣室の洗面台は、体の状態に配慮した昇降式を設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の好みや生活習慣に合わせ 座椅子やソファを使用し利用者様同士お互いに会話しやすい席を工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの調度品や使い慣れた時計や布団を用い、今までの生活習慣であった仏壇へのお参りやテレビやラジオの鑑賞などが継続できて穏やかに過ごせるようにしている。	居室には介護用ベット・防災カーテン・大型クローゼットを完備している。自宅で使い慣れた日用品を持参し、心地良く過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の居室内での安全が確保されつづご自分でできることが継続できるよう居室環境は極力変えないようにしている。		